

女性活躍推進法の施行後3年の見直しに関して

福岡県福津市 副市長 松田 美幸

●雇用形態における男女格差の是正と、働き方によらない能力開発の推進を

2017年の労働力調査(総務省発表)によれば、非正規の職員・従業員の割合は37.2%と対前年度比0.3ポイントの低下となったが、依然として、女性雇用に占める非正規の職員・従業員の割合は55.4%と高く、男性は21.8%と大きく差が開いている。

2017年	雇用者数	正規	非正規	非正規率
男性	2,966万人	2,318万人	647万人	21.8%
女性	2,504万人	1,114万人	1,389万人	55.4%

※労働力調査(基本集計)平成29年(2017年)平均(速報)結果から編集

対前年比で、15～64歳の非正規の職員・従業員は男女合計で約3万人減少しているが、その内訳は男性の非正規の職員・従業員が約10万人減少し、一方、女性の非正規の職員・従業員が約8万人増加している。

正規職員として働きたい女性が、非正規という形態しか選択できないといった状況を改善するようフェアな環境を整備すると共に、非正規の働き方を積極的に選択する人も存在することから、雇用形態によらず、その人の持つ能力が十分に発揮できるような配置・育成・評価を推進するような働きかけが必要である。